



龍に婿入り・二

攻め



俺を孕ませろ



俺以外とは
シてほしくない…

受け



りょうた
亮太

村で暮らしていた青年。
幼い頃山賊によって両親を亡くし、
村長に引き取られた。
物怖じせず、気さく。

ユウロン
憂瓏

村長の夢枕に現れ、
たびたび助言をする龍神。
名前は大陸にいた頃の名残で
元はこの国の龍ではない。
姿は自在に変えることができ、
今は下半身に女性器がある。



村長

厳しくも優しい。
龍神の夢を見れる唯一の人間。

～前回までのあらすじ～

平和な村で暮らしていた亮太は、ある日突然村の守り神である龍神に呼ばれる。
向かった先にいたのは女の下半身を持つ男、憂瓏。

「俺と交尾してこの腹に子種を注げ。それがお前の役割だ」

龍の生贄として食われると思っていた亮太は、童貞を龍神に食われてしまう。
はじめはたじたじだったが、初めて見る女性器や憂瓏の誘惑に抗えず、
風呂場で、畑仕事中に、仕事終わりに…種付けの腰振りが止まらない。

さらに憂瓏に対して独占欲のような感情まで芽生え始める――

龍に婿入り・二

様

ユウロン
憂瓏様！



お逃げください

この国はもう
終わりです

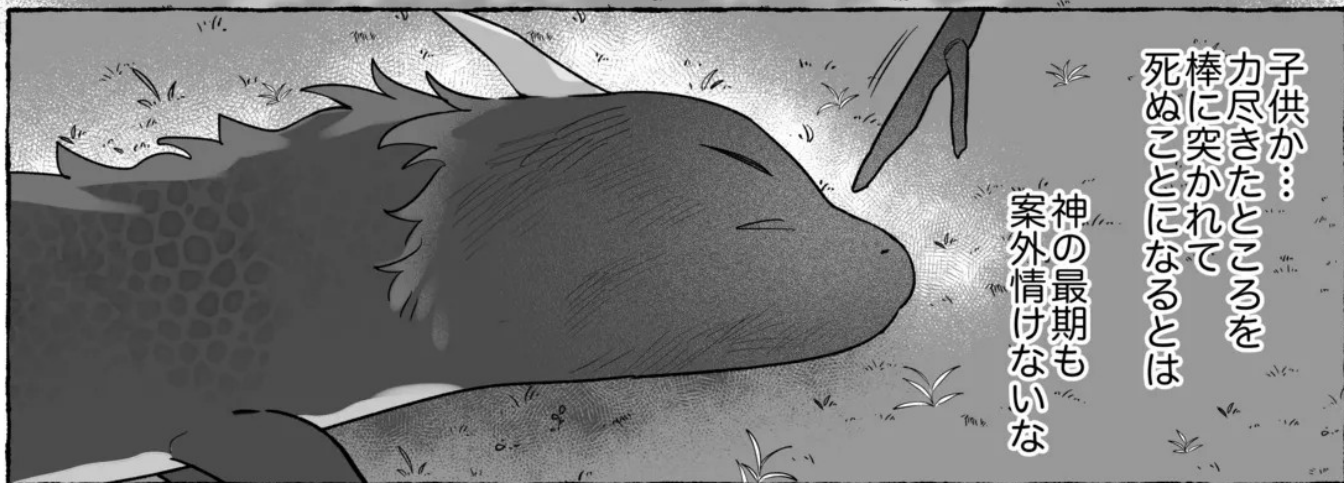
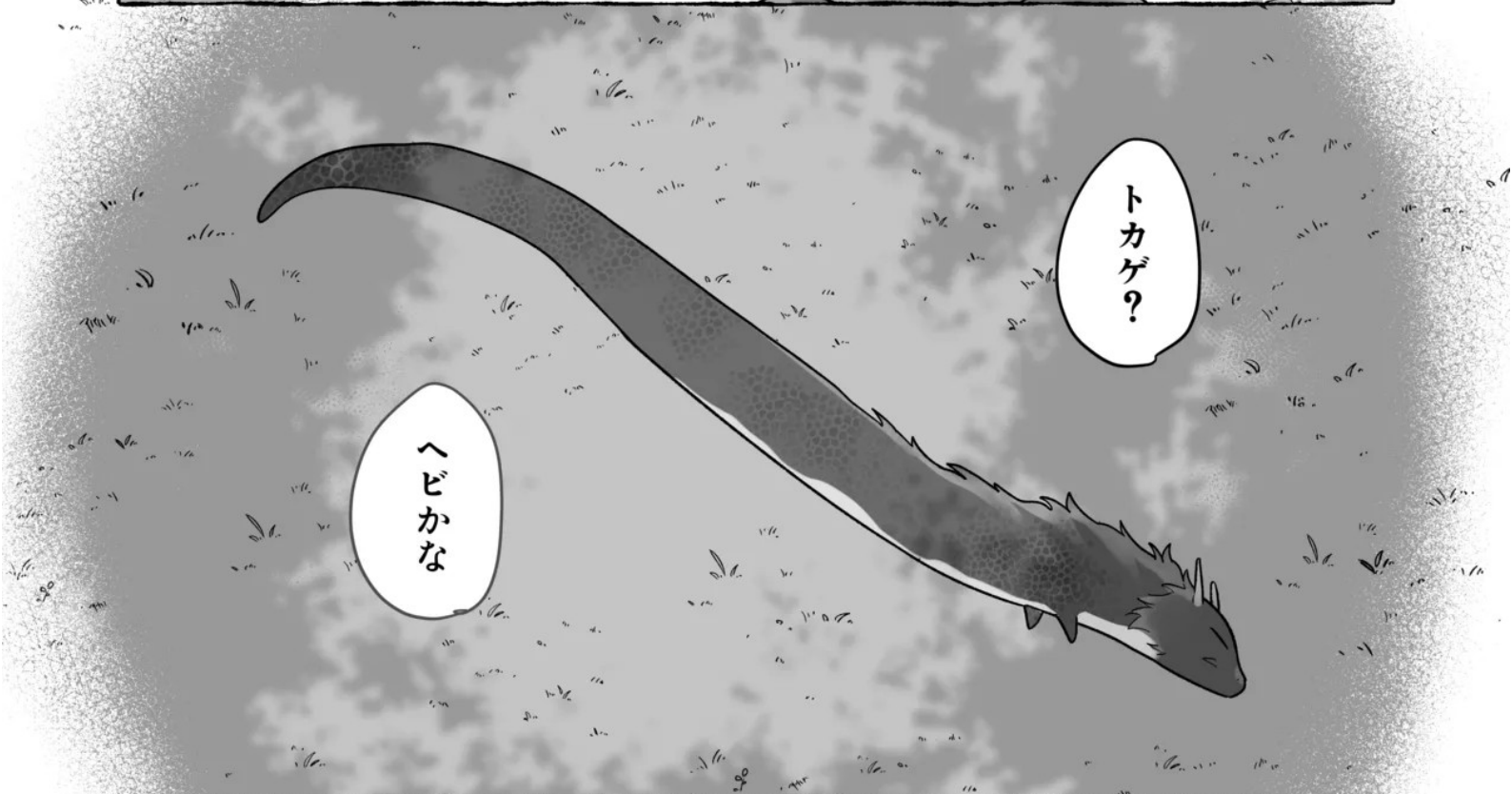
内乱だ！

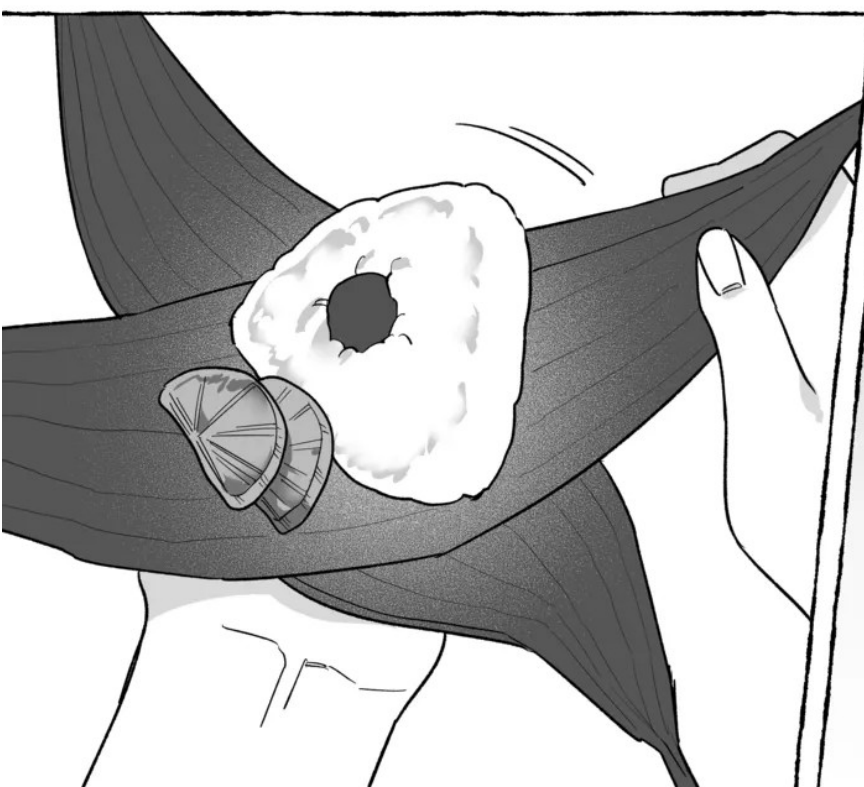
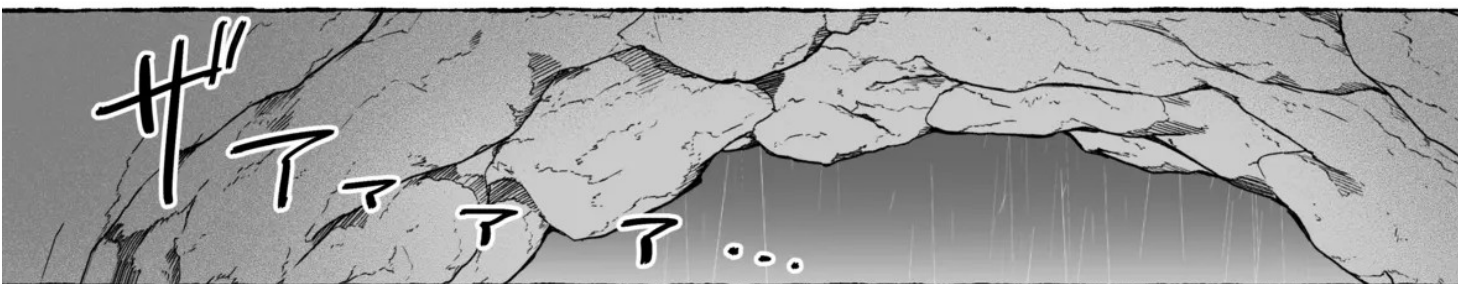
もう
神はいらない！

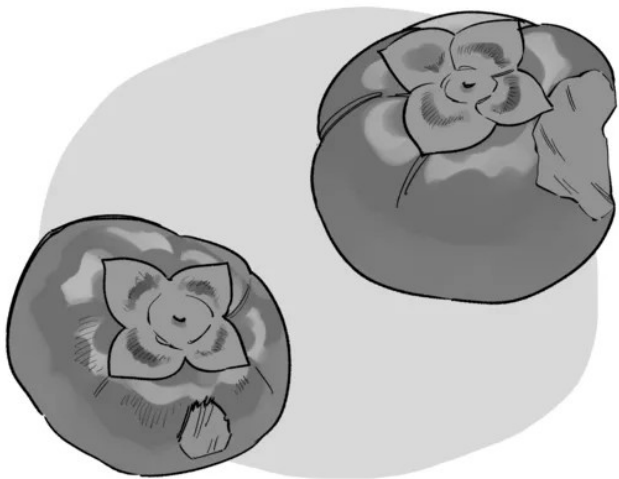
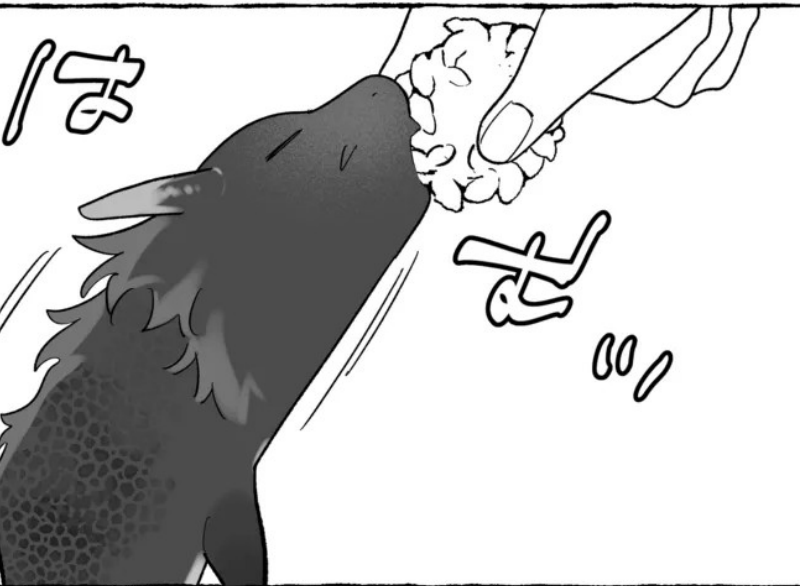
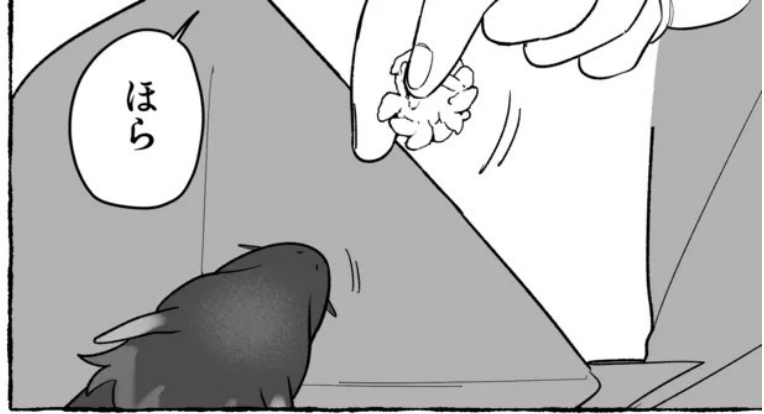
これからは
人が支配するのだ！

せめて
貴方様だけでも

どうか遠くへ――









お前、
父さんと母さんは
いないの？

そういえば、
俺に親があった
記憶すら無いな



俺もね、
一人ぼっちに
なっちゃったんだ

少し前、家族で
山に行った時、
山賊に
襲われたんだって

俺は寝ててよく
覚えてないんだけど

いつの間にか
俺は村に
帰っていて

いつの間にか
父さんと母さんは
いなくなった



家族が

恋しい



じいちゃんとか
ばあちゃんがいるから
ほんとの一人じゃ
ないんだけどね



でも、やっぱり
父さんと母さんが…





俺の身体が
準備できたら
もう一度会おう

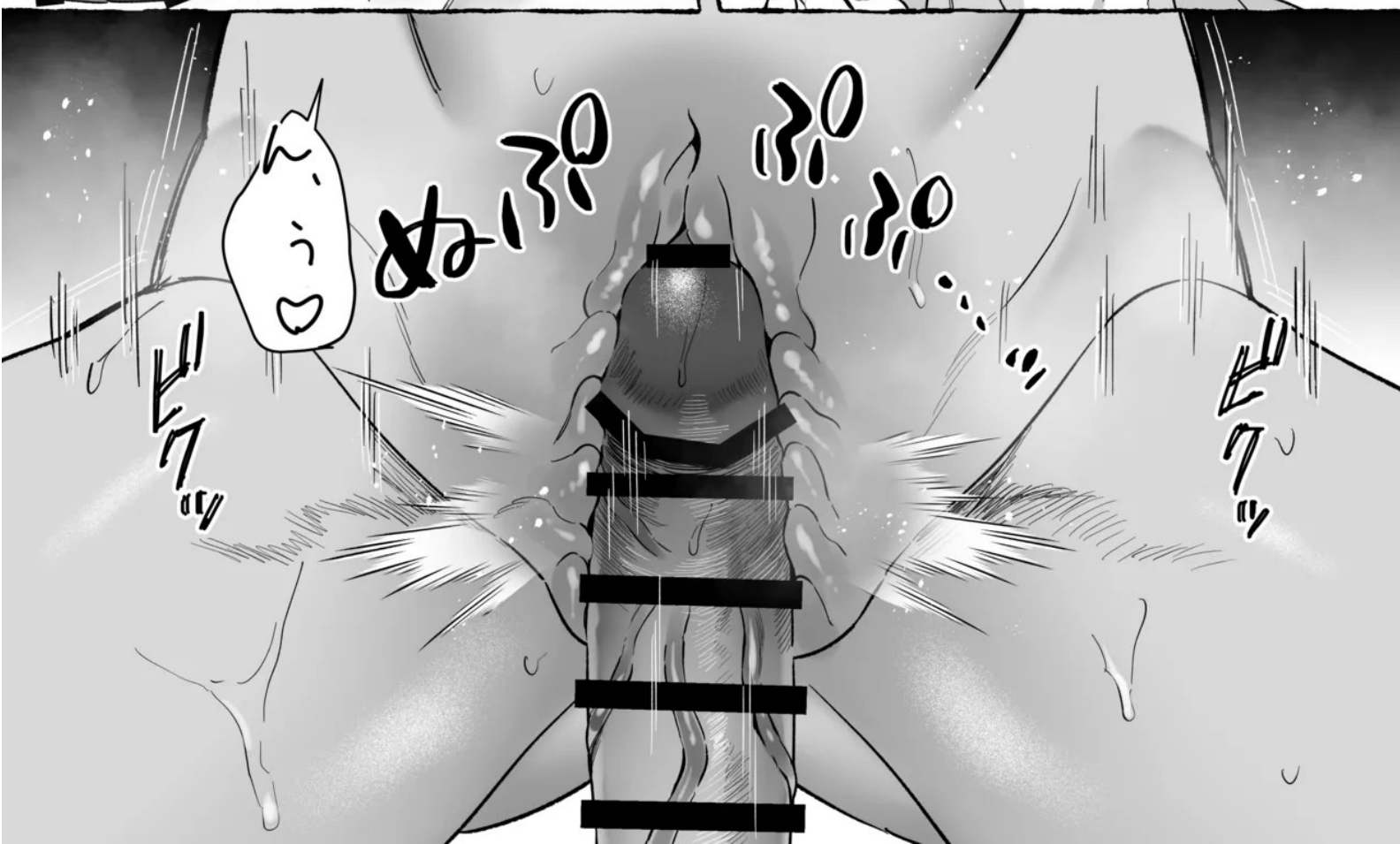
それまで
少しの別れた















母乳も
出せるように
するか

本当に
なんでも
ありだね…

もにゃ

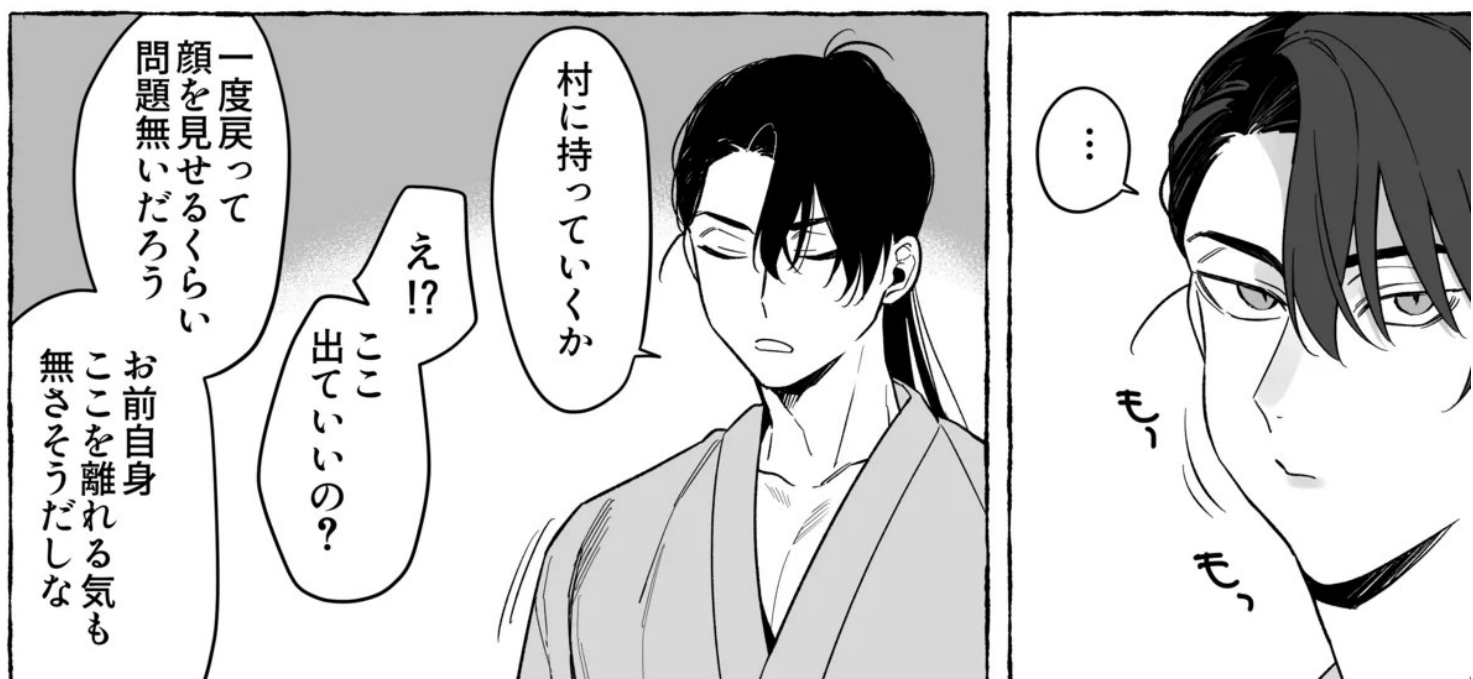
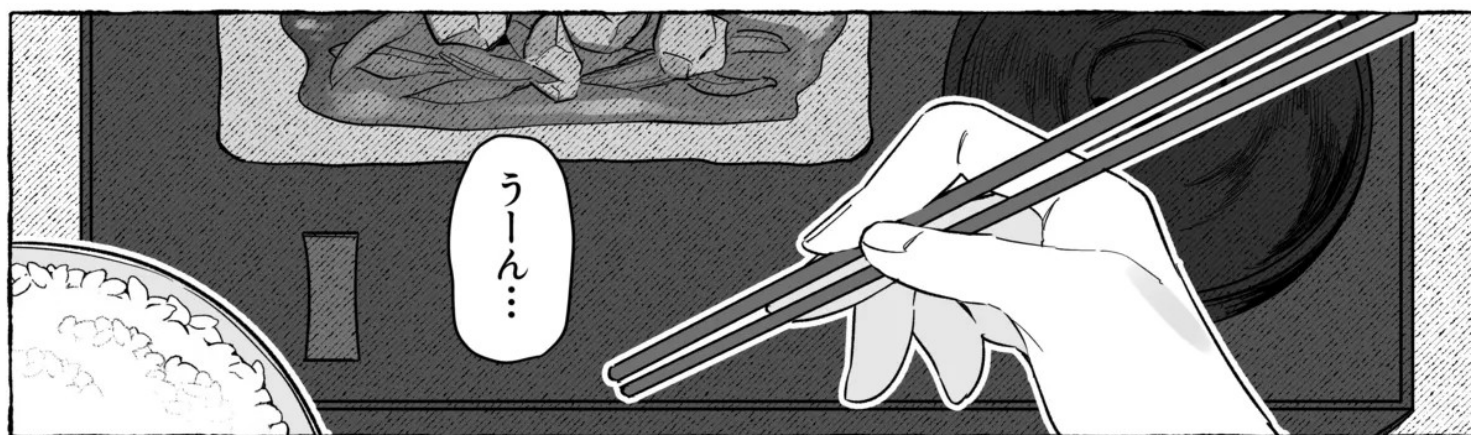


胸が張ったら
絞ってくれるな？

むせ…

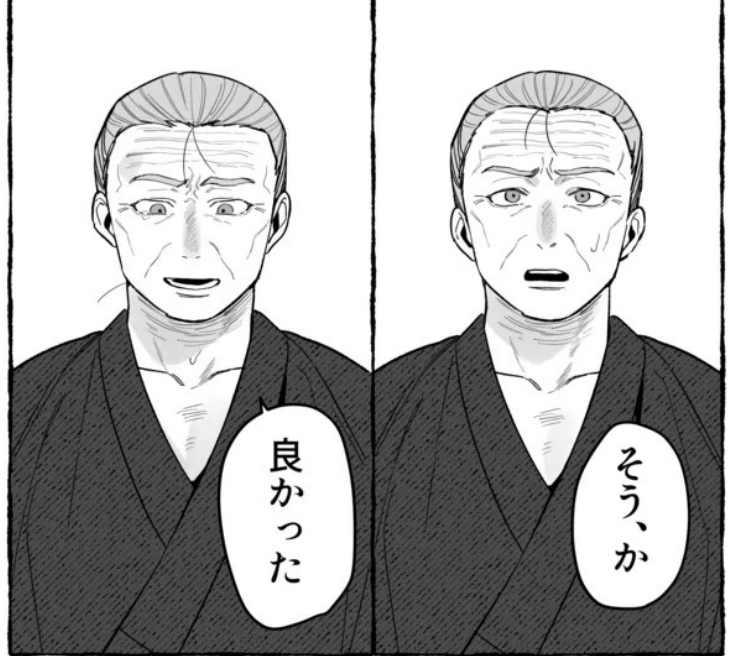
ん

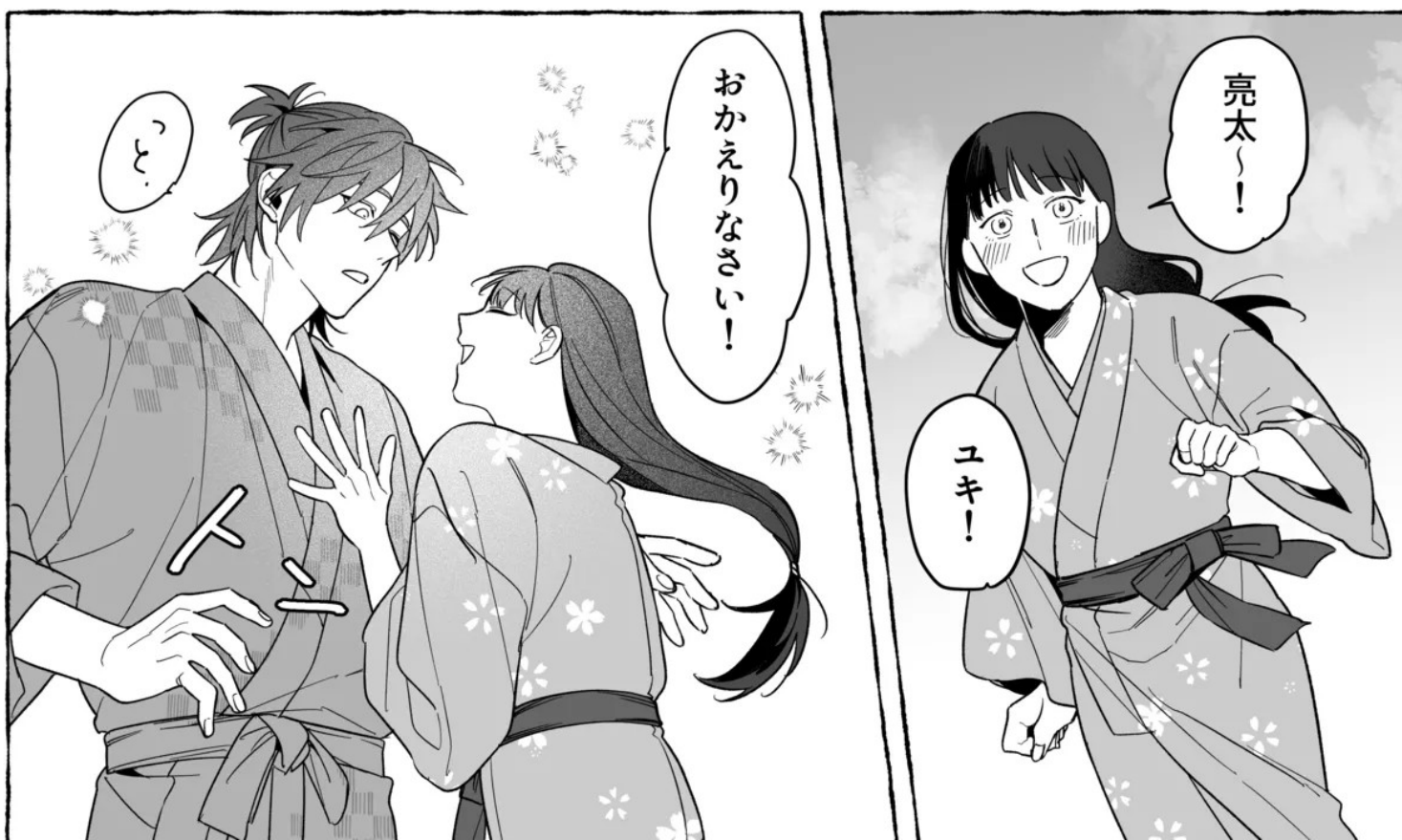
ん











元気そうで
よかった！

もう用は
済んだんだよね？

悪い、
今夜にはまた
帰る予定なんだ

えーっ

……







こんなに
真っ赤になって…

いつもここまで
酔わないじゃないか



まったく！

正体がバレちゃ
いけないって
憂瓏が言ったんだろ



だがな



そうだねえ

大勢の人と飲んだり
話したりするのが…
久しくて…

お前も
楽しそう
だったし…

酔ってる憂瓏
かわいい



つがい
番以外の雌に
その身をやすやすと
触れさせるな

神の伴侶である
自覚が足りない





……なに、
もしかして
嫉妬したの

む、こら、
何を笑っている

俺は今
説教してるんだぞ

えーいや…
そりゃ…ねえ



ふん
誠意が
感じられない

ごめんって
どうすれば
いい？



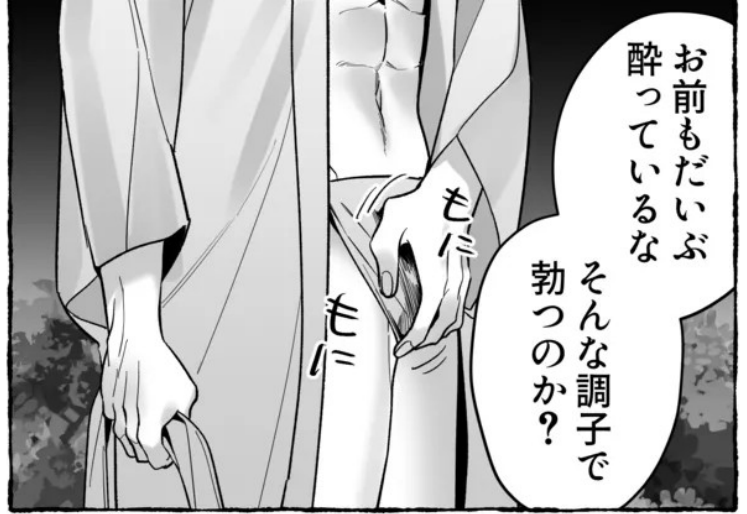
ちんぽを
勃たせてみせろ

今、ここで

んふふ
いいよ

…外だぞ

憂瓏が勃たせろって
言ったんだろ？



お前もだいぶ
酔っているな

そんな調子で
勃つのか？



あー

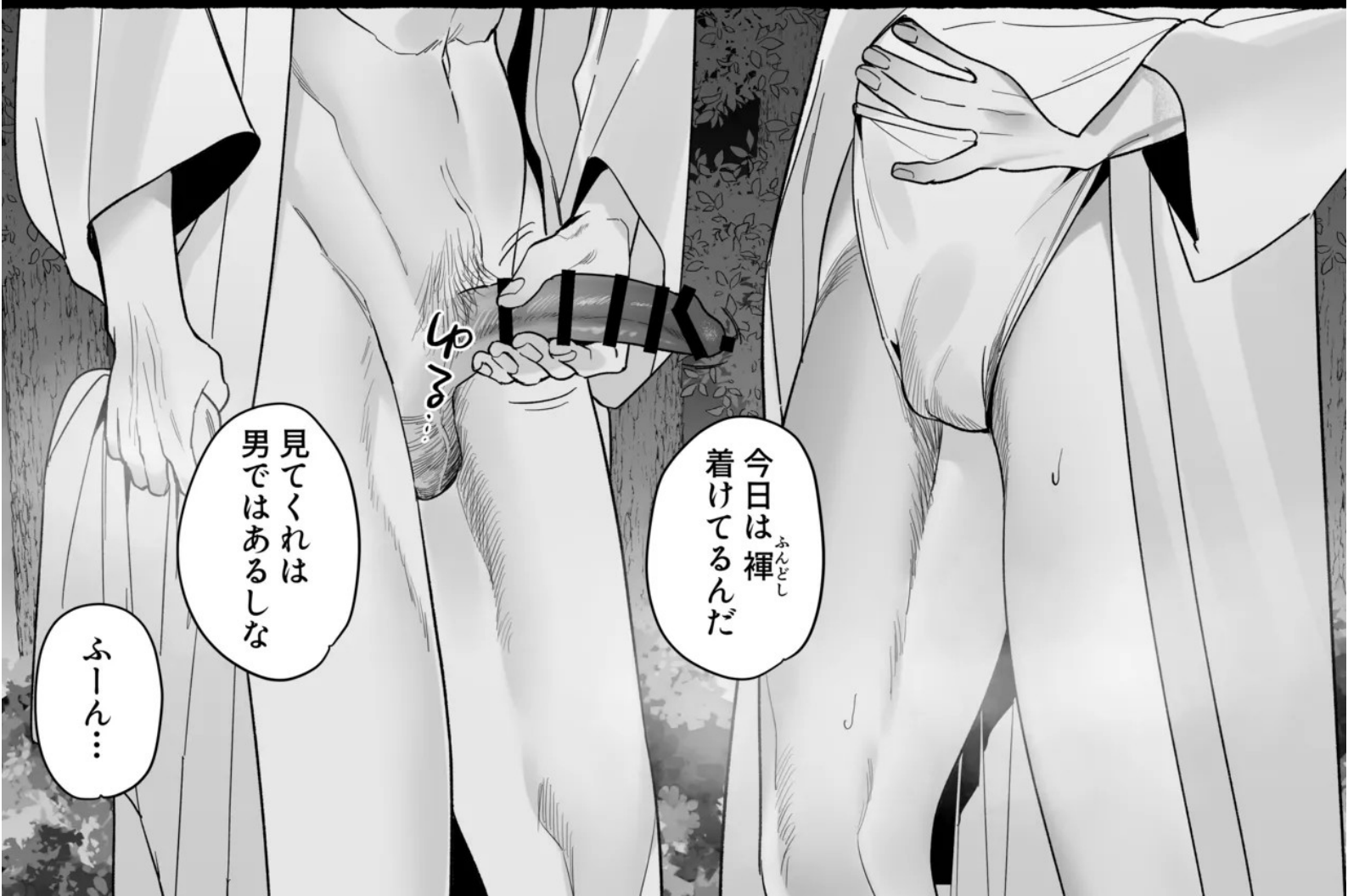
わかんない

わかんない
から…



憂瓏も見せてよ

そしたら
勃つかもね



今日は禪
着けてるんだ

見てくれは
男ではあるしな

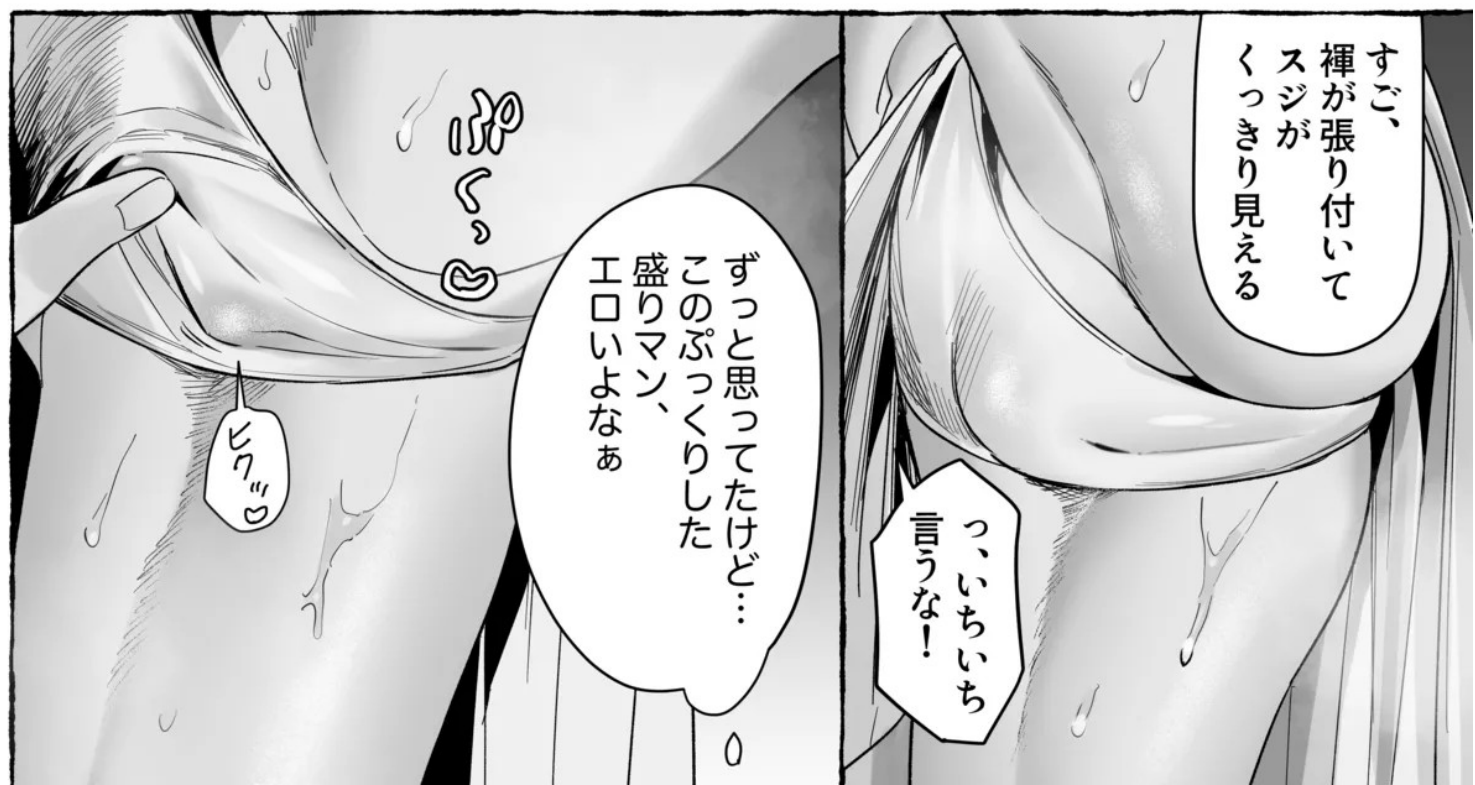
ふーん…





ここ...はは、
どんどん濡れてきた

後ろの木に
手ついて















ん？

こんな時間に
水浴びなんて
風邪引いちまい
ますよ



憂隼？

あれ、どこに…





だが

あなた方は
村の衆に混ざって
飲まないのか？

それは何より



ついて来て
良かった

此奴らが
村に来る前に
追い払える

やはり
賊の類いか

俺らは
村の人間じゃ
ねえよ



へっ
アンタもとつくに
気づいてんだろ



？

…？



ッ

ガッ



飲んだことのない
味だとは思ったが…
これは
分解に時間がかかる



ああ、
すぐ立ち上がらない
方がいい
アンタの酒は
南蛮のとおっておきだ



荷物が無いか
見せてもらうぜ



村人をおびき出す
手間が省けた



見たところアンタは
いいところの坊ちゃん
みたいだな



ウッ！
ウッ！
ウッ！

ゴ
ッ
ッ
ッ

ズ
ッ
ッ
ッ

フ
ッ
ッ



この程度で俺が
膝をつくとは思
わないことだな
お前たちが束になっ
て掛かったところ
で結果は変わらない



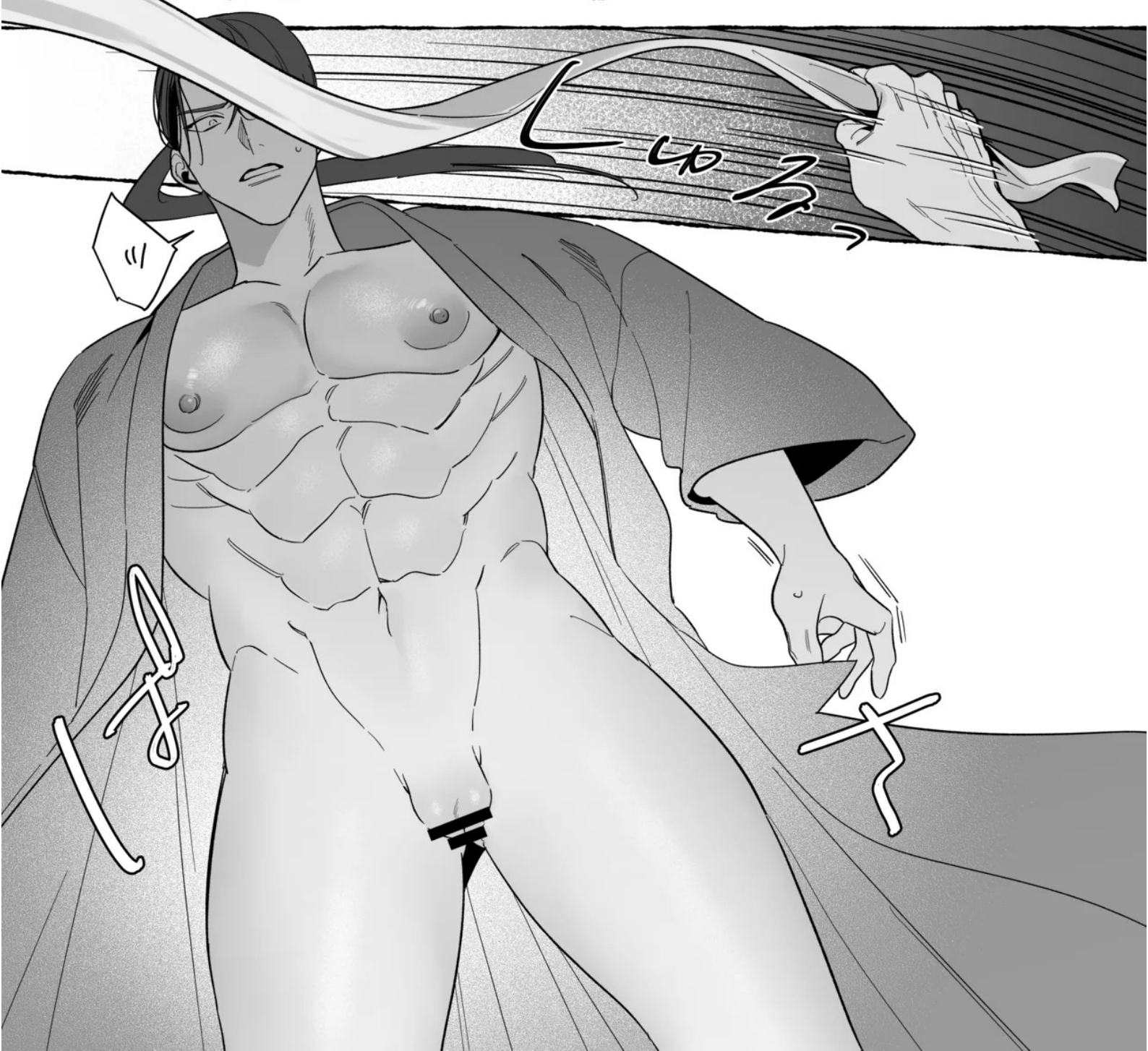
ツ
ナメやがって!!



ならば数で
押さえるまで!

勝負あり、だ



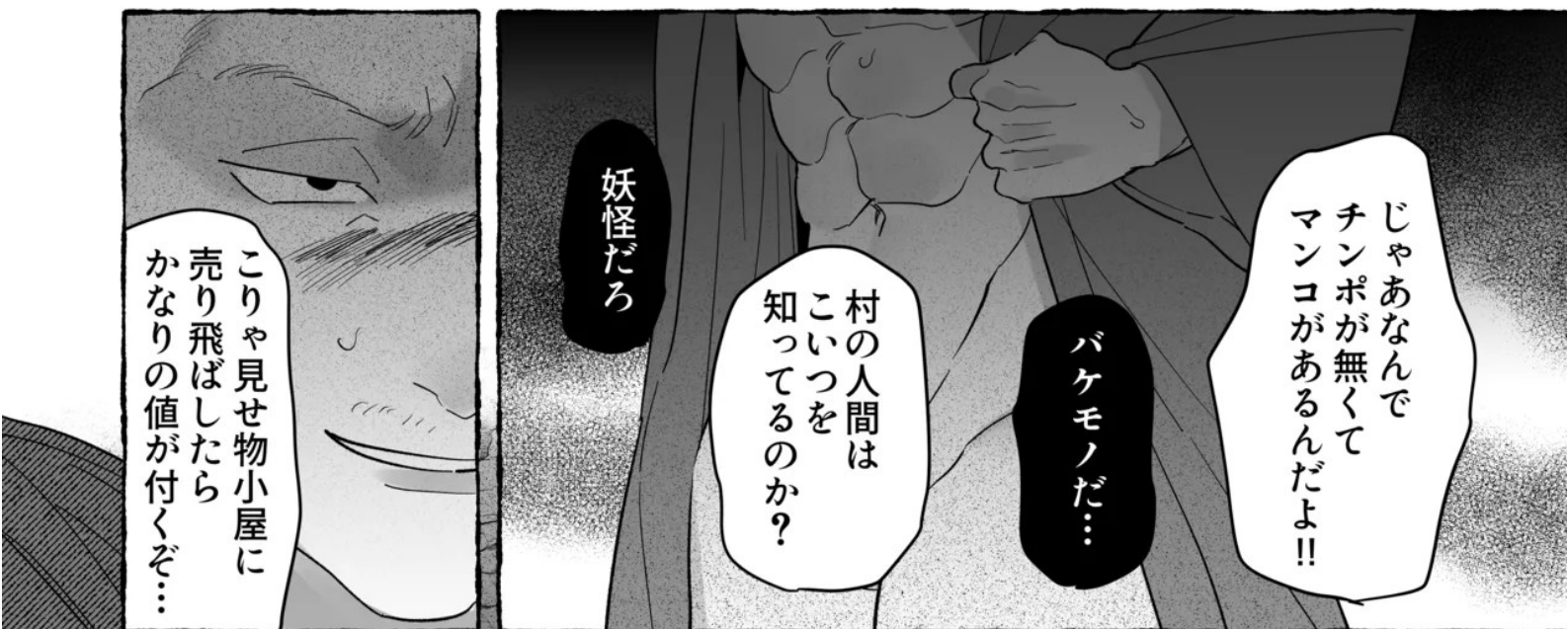




お、お前、女か!?

いやどう見ても男だろ!!

見られた…っ



じゃあなんでチンポが無くてマンコがあるんだよ!!

バケモノだ…

村の人間はこいつを知ってるのか?

妖怪だろ

こりや見せ物小屋に売り飛ばしたらかなりの値が付くぞ…



ああ…でも…その前に…

無駄な殺生は避けたいが

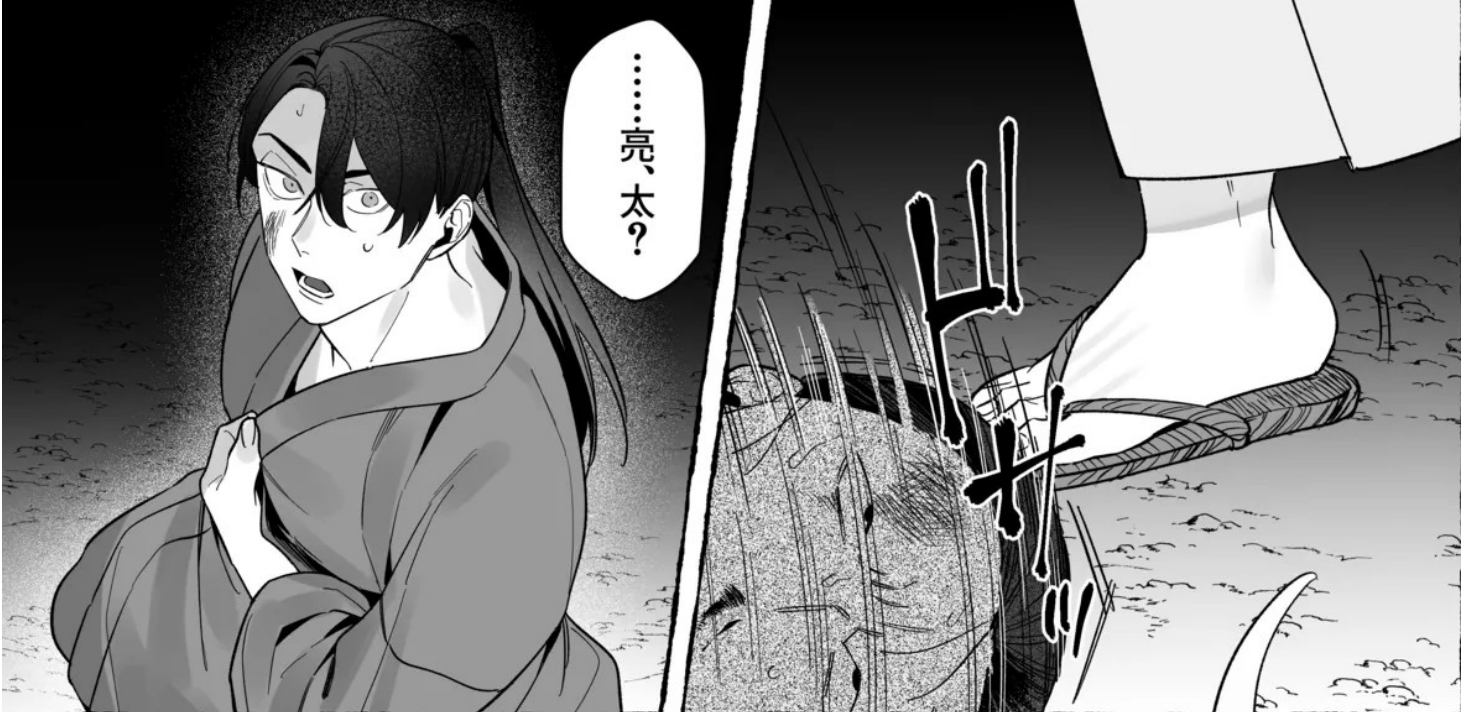
俺たちでまず味見してやろう

見られた以上…



おい







よかった
間に合って…

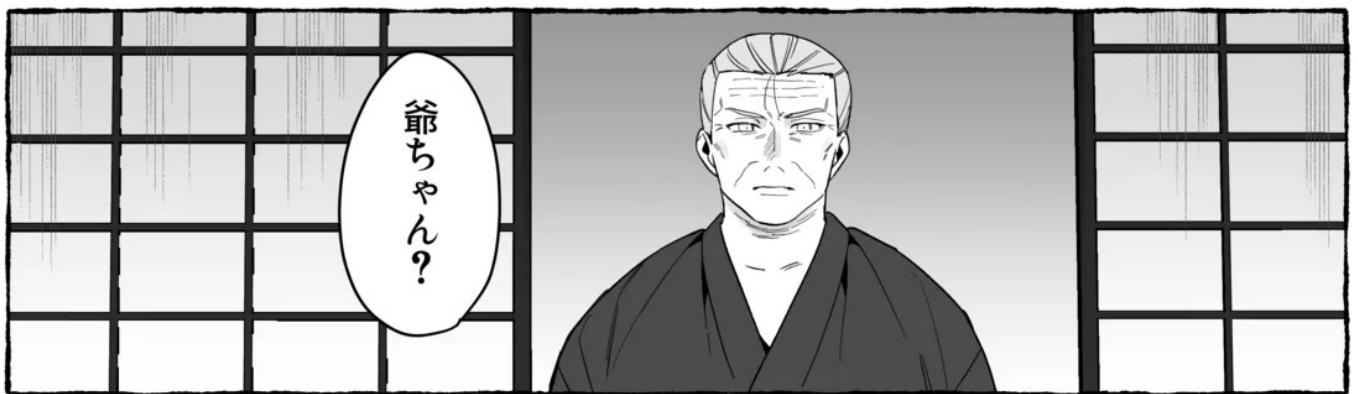


っと

クダ…



村の
守り神……



……これは
お前の親の話だ



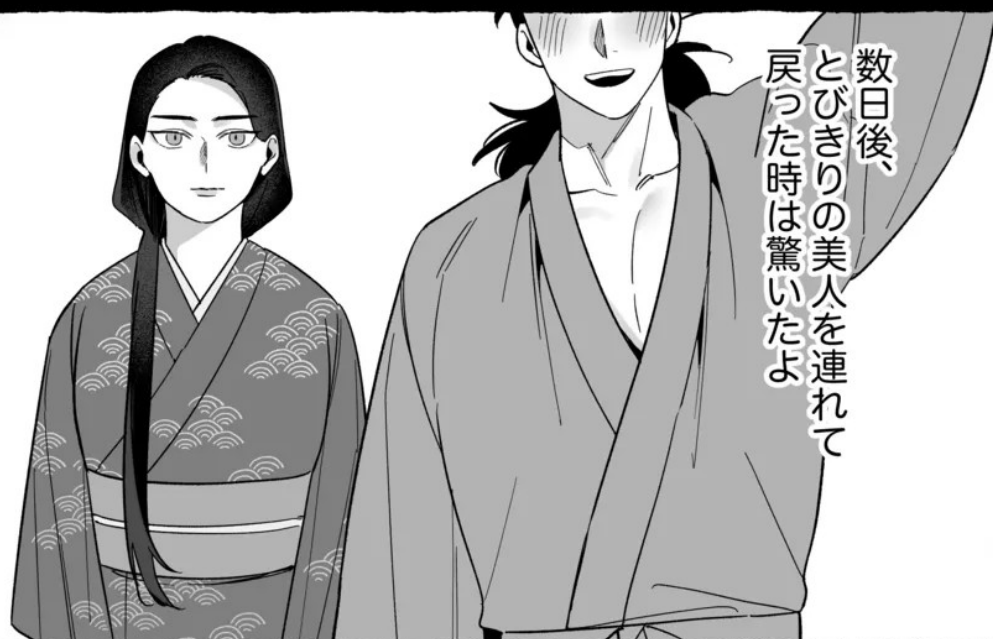
お前の父親、凛太郎^{りんたろう}は
この村の出身で
お前によく似て世渡りが上手く、
人望も厚いやつだった



それがあある日、しばらく
留守にすると行って
山に入ってしまった



数日後、
とびきりの美人を連れて
戻った時は驚いたよ



高貴なお家のお嬢さんと
駆け落ちでもしたのかと、
はじめは警戒した



それが亮太、お前だ



けれどこれといった
問題も無く
すぐに子供を授かった



それから数年、
おそろしいくらい
この村は平和だった

というのも、
凛太郎の嫁さんの助言が
やたら的確だったんだ

まるでこの土地の地形から
今後の空模様まで知り尽くしていて、
起こるべく天災への
備え方なんかもわかっていた

やがて彼女は
巫女さんのように
皆に受け入れられた

そして亮太が
8つになった頃、
別れは突然だった

その日は一家揃って
山へ柿を採りに行った

けれど、戻ってきたのは
傷だらけの嫁さんと
眠る亮太だけ

俺は急いで
村の衆を集めて
二人を探しに
山へ入った

見つかったのは
数人の山賊の亡骸と、
柿が入った籠だった

俺に亮太を託して、
あの人はボロボロのまま
山に戻っていった



その晩
俺は
龍神様の夢を見た



亮太を
頼みます

そう言った声は
間違いなくお前の母親…
お竜さんの声だった



次に夢で見たのは
黄金の龍
だったからな…



それからその白い龍が
夢に出ることはなかった

おそらくお前は
あの廃神社の
あるじ
元主である
龍神の息子だろう

父親の方は
どうやら
普通の
人間らしいがな

なんというか、
全然実感がないよ…

無理もない
俺ですらお前からは
神気の類を
感じ取れなかった

実際お前は
しんりき
意図して神力を
操れないしな

じゃあ俺はもう
龍には
なれないの？

昨夜もそうだが、
一時的に
「龍のように見える」
ことはできても
龍になる力は無い

山賊を
気絶させたように、
その血が
お前を守ることは
あるだろうが…

おそらく母君は
人里に下りる時
神力をほとんど
手放したのだろうな

……
手放さなきゃ
良かったのに

……







お前と過ごして、
人間がうつったのかも
しれないな



…無事で良かった

憂瓏が強いのは
知ってるけどさ



ふ
そうだな

あの雑魚共に
負ける気はしなかった

でも

お前が来てくれたのは
嬉しかったぞ

外ではゆっくり
できなかったからな

そうだ



この体勢で
するか？

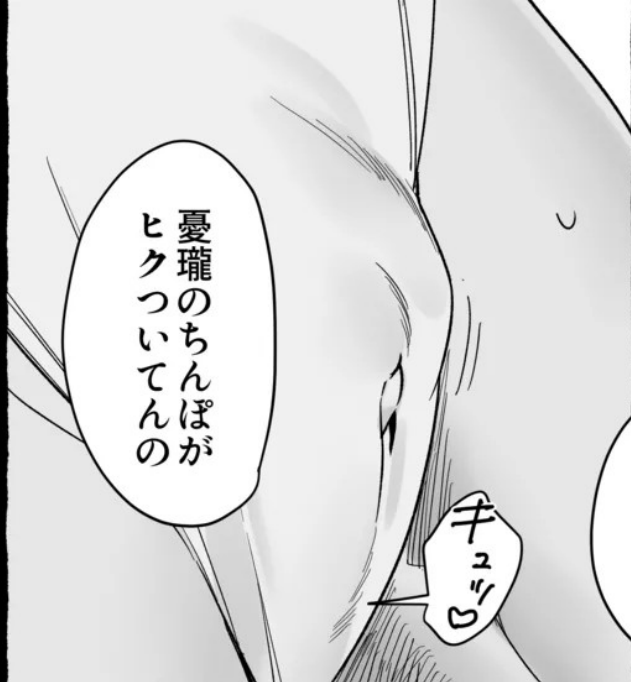
170
かゝ

この程度なら
問題ない

いいの？
きつくはない？

いっ、







いくの早くない？

ビシッ
ビシッ

っふん
この程度
極めたうちに
入らん



でもほら
雌汁おもらし
してるよ

広げるなっ！

じゅわわわわ



はーっ♡♡

すっ...
すっ...

じゃあ
ちゃんと
イこつか

敏感なところ
ぜんぶ
撫でられて……♡

っほ♡
ほ♡

ほ♡
は♡

じゅっ
じゅっ
あ♡
あ♡
お……♡

はしたない腰振り
止められない……♡

ん♡

ほ♡

は♡

は♡
は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡













揺るがぬぞい♡

赤子の部屋なの♡
旦那様ちんぽで
気持ちよくなってる♡♡

まんこすごい♡

まんこイッ…
ぐう……♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あは、俺も♡

濃いの出る♡

孕ませるやつ
だす……♡!!

あ……
ちんぽ
震えてる……♡

これ、っ
孕むう……♡♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡



あ











ゴキウ

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...

は...



：お前は
隠しておくには
もったいない男だ



眠い……

……？



お前と
過ごした時間が
一番楽しかった

生まれてから
数千年



オ
ッ



あ
これ
寝たら
だめなんじゃ……

どうか、幸せに









あの子は
人間として
幸せに暮らすべきだ

ここまで読んでいただきありがとうございました。
完結しませんでした。続き描きます。
またよろしくお願いします。

～以下プチ設定～

・憂瓏と亮太が最初に出会った時、
憂瓏が人の姿になれた(神としての力が回復した)のは、
亮太から食べ物＝お供物を貰ったからです。

・神力＝信仰心

信者の信仰心が強ければ強いほど神として強くなる

・当作品は室町時代の日本をイメージして描いています。
憂瓏のふんどしは日本では少し後の時代のものです。